

新宮山彦ぐるーぷ第1871回ー5  
連休中の行仙宿への来宿者の対応と作業(その5)

◇実施日：平成28年05月06日(金)～08日(日)  
◇参加者：青木宏充・梶野照雄(7～8日)、山口泰宏(6～7日) 3名。

5月6日(金)曇りのち雨

午前中の作業は、第1871回ー3の行事報告書に記載。  
昼食後、川島・生熊・湯川の3名が下山。  
雨も本降りとなり、屋外での作業中止。14時15分楊枝ヶ宿小屋からの女性が到着。先へ進むか悩んだ末、宿泊決定。その後行者、トレラン、自衛隊の計4人到着。  
21時就寝 外はどしやぶりの雨。

5月7日(土)曇り

朝からガス(雨ではない)、管理棟から小屋に戻ると、結袈裟・ザックカバールの忘れ物を山口さんが発見。後発のトレランの人に忘れ物を託して、さあー出発の時に、行者さんが忘れ物を取りに戻ってくる。

8時30分出発。前日の作業終了地点まで戻り 作業開始。  
鉄塔手前の崩落箇所、最初の1発でビンゴ。1.5mの杭を30cmまで打ち込んだところでハンマーの頭と柄がバラバラになる。整地をして次の場所まで移動したが、ハンマーが使用できず、トンガでは限界があり、2ヶ所未補修。通行には支障ない。  
11時に梶野さん昼飯をもって現場到着。

分岐点から近い崩落箇所(一部、中前さん達が補修済)は、杭は小屋在庫を含め足りると思うが 栈木がない。現場近くの間伐材を使用しなくてはいけない。チェーンソーが必要だ。

途中の岩場の改造工事はとりあえず セメントで補修するつもりです。

あと、ホームセンターで現品処理のキャンプ用椅子とテーブルがセパレートになるタイプが3000円で売っていたので購入。  
椅子は、鉄塔の所に、テーブルはモノレールの終点におくつもり(構造上弱いので補強・木の板を上にも、足の部分はアングル)。青木の連休の行動一覧表(自慢満載)は別紙です。(記 青木)

5月7日(土)曇り

午前8時50分に登山口到着。新宮組はまだ着いていない。着替えて靴を履き替え、モノレールを下ろしに行く。  
下りのモルタル擁壁の上部で、沖崎車が停車するところが見えた。資材を積んだ児島さんの車は、少し遅れるとので青木、山口両氏に昼食を届けることもあり、畑林(清)さんと2人で小屋まで先行した。  
10時過ぎに小屋到着。弁当とお茶などをサブザックに入れて用意する。



M機を下ろす



沖崎車到着



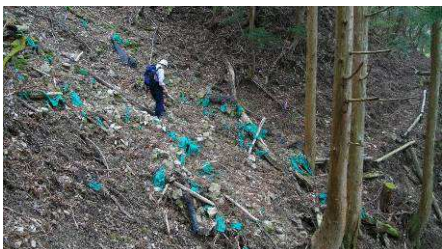
第2ベンチ上から雲海



行仙宿小屋到着



未改修部分



昨年と同じ場所

畑林さんは「掃除しとくよ」と言われるので、掃除機を出し、発電機の停止方法を説明してから捲き道へ向かった。

捲き道は改修の跡があちこちに見られ、歩き易くなっていた。上部からの崩れがひどい部分は、まだ着手されていなかったが、新しい鉄杭が置かれていた。昨年と比べても、緑色の土嚢が減っていて、はるか下の方にまで流れ落ちているのが見える。

30分ほど歩いて笛を吹いてみると「おい」と声が聞こえた。作業現場に到着したが、ハンマーの柄が折れて作業中止のことで、少し戻って昼食にする。

昼食後、小屋に戻る途中で単独の縦走者が南下してきた。登るのに疲れて捲き道の標識に誘われたそうだ。

すぐ後から沖崎さん、畑林さん達が、作業現場を見に来たが、作業中止のため一緒に行仙宿小屋に戻った。

小屋で休憩後、日帰り組と山口さんは下山準備。青木、梶野も駐機場の工事現場まで一緒に降りる。

現場には足場パイプや発電機、電動工具まで荷揚げされていて、着々と工事が進んでいた。谷側が急傾斜のため足場が悪く、資材

の運搬には慎重を期した。  
15時の作業終了までお手伝いし、M機を使って小屋に戻った。小屋には宿泊者が10名ほど、予約済みの人と、予約なしの人の寝床を割り振って、我々の荷物は管理棟に移した。



送電鉄塔横

山口さん作業中

16:30 小屋内

18時から管理棟で夕食準備を始める。今回は2人だけなので、大阪ではちよつと有名な某チェーン店のトンカツを持ってきた。



調理中



トンカツ定食出来上がり



鉄杭をもって出発



1分チンして、フライパンに油をいれ少し焼くと衣がからっと仕上がる、と聞いてきたのでそのようにしてみた。少し焼き過ぎで焦げたが、上々の出来上りに2人とも大満足。調理時間が短いので、多人数でも大丈夫のようだ。

23時に就寝、外に出てみると、少し寒い空には星がいっぱい見えている。

#### 行動タイム

08:50 補給路登山口 09:25→10:05 行仙宿小屋 10:20→11:00

捲き道作業現場・昼食 12:20→13:00 行仙宿小屋 13:15→13:45

駐機場 15:10→15:35 行仙宿小屋。

#### 5月8日(日) 晴れ

6時起床、小屋泊の人はすでに出発して誰もいなかった。多人数の組は荷物がデポしてあり、小屋に戻って下山するようだ。ゆっくり朝飯を済ませ、8時に鉄杭を持って捲き道に向かう。

9時過ぎに難関の岩場に到着、急峻な岩の沢だが崩落が激しい。



難関の岩場



手掛かりも少ない



昨年  
の状況

薄い板状にクラックがあり、手でも簡単に外れる。高捲き出来ないかと登ってみたが、斜面が急なうえ、柔らかくてズルズルと滑りやすく、10mほどで諦めた。橋や梯子を架けるにも両側に固定できそうな場所がなく、現在の状態で工夫する以外にないと思われる。かなりの難題である。

11時に小屋に戻り、青木さんを残してポリタン2個をもって登山口の水場へ降りる。駐機場まで降りた時に「こんにちは」と誰か登ってきた。

山林所有者の上平前村長さんだった。保安林解除後の報告のため、写真を撮りに来られたそう。これで上がりますか？とお尋ねしたが、歩いて行きますと登って行かれた。

ポリタン2個を満水にしてM機の荷台に積み、終点まで上がる。背負子に乗せて背中に担ぎ上げるのに苦労した。

やはり水平の台が必要だ。軽いものなら何とかなるが、そこそこの重さの物は斜面では扱いにくい。何とか背中に担ぎ、歩きだすがお尻が冷たい。

第二ベンチで一旦下ろしてみると、蓋が締まっていな、何度も締めなおしてみるが、やっぱり締まらない。よく観察すると、もう一つのポリタンとは違う蓋だ。間違えてピッチの違う蓋を付けている。仕方ないので蓋が上部になるようにくり直して、小屋に向かった。小屋に着くころには右お尻がパンツまでポトポトになってしまった。

12時過ぎから昼食、青木さんが用意してくれた焼き飯1.5人分とカップ麺で腹いっぱいになった。

小屋に荷物をデポしていたグループも戻ってきて下山、ゴミも残さず、きれいに使っていた。皆さんに見てもらった方がいいんじゃないかということで、小屋内の玉岡さん叙勲の幟の横に移した。

管理棟内荷物を整理、掃除機を出して隅々まで掃除した。



表彰状移す



管理棟を掃除機で



ポリタンを下ろした

小屋のノートを写真に撮り、14時15分に下山開始。  
空のポリタン3個(小)は、登山口水場まで下ろした。下ろして  
から見るとNo.8の蓋が違っていた。このままでは水が漏れ  
るので、空のまままで小屋まで持って行ってもらいたい。  
駐機場の屋根パイプの一本が内側に傾き、M機ギリギリになっ  
ていた。反対側の柱を立てれば解消するが、運転の際には十分注  
意が必要だ。

15時前に登山口に下山、青木さんと別れて帰路についた。

#### 行動タイム

行仙宿小屋 08:00→09:10 岩場 10:05→11:00 行仙小屋 11:05→登  
山水場→12:10 行仙小屋 14:15→14:55 補給路登山口。

(記 梶野)